令和6年度

第1回島根県公共事業再評価委員会議事録

令和6年7月1日（月）

島 根 県

令和6年度 第1回島根県公共事業再評価委員会議事録

件 名	令和6年度 第1回島根県公共事業再評価委員会
日 時	令和6年7月1日（月）10：00～17：00
場 所	島根県市町村振興センター6F 大会議室
出席者	<p>●委員 今井順一、上野和広、佐藤真理、常國文江、寺田哲志 豊田知世、堀田崇由、長廻英夫、松浦俊彦、三輪淳子 （敬称略）</p> <p>●県 土木部 技監、土木総務課長、技術管理課長 道路建設課 企画調査 課長補佐 他 国道建設 課長補佐 他 県道建設 課長補佐 他 河川課 河川海岸整備/維持 課長補佐 他 港湾空港課 港湾建設/港湾計画 課長補佐 他 砂防課 砂防/急傾斜保全 課長補佐 他 建築住宅課 住宅建設 課長補佐 他 農林水産部 参事 事務局 技術管理課 調整監 他</p>

<p>配布資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事次第 ・ 令和6年度第1回島根県公共事業再評価委員会出席者名簿 ・ 令和6年度島根県公共事業再評価委員会スケジュール（案） ・ 委員会（第1回～第5回）における課題整理の流れ ・ 令和6年度公共事業再評価対象事業箇所表、位置図、地域別・現地調査ルート案、事業費負担割合一覧表 ・ 島根県公共事業再評価実施（H20以降）後 完了地区 ・ 令和6年度公共事業再評価対象事業 対応方針（案） ・ 環境への配慮（環境配慮事項一覧、取組シート） ・ 島根創生計画（抜粋） ・ 島根県公共事業再評価委員会委員名簿 ・ 島根県公共事業再評価実施要綱、島根県公共事業再評価委員会設置要綱、島根県公共事業再評価委員会運営要領
-------------	---

令和6年度公共事業再評価対象事業一覧表

【県事業】

所管課	事業名	地区名 (又は箇所名、工区名等)
土木部 道路建設課	1. 防災安全交付金事業	(主)玉湯吾妻山線 大峠工区
	2. 社会資本整備総合交付金事業	(主)川本波多線 多田～港工区
	3. 防災安全交付金事業	(一)匹見左鐙線 左鐙Ⅱ工区
	4. 防災安全交付金事業	(主)国賀海岸線 浦郷3工区
	5. 防災安全交付金事業	(主)玉湯吾妻山線 川井2工区
	6. 道路交通安全施設等整備事業 補助(通学路緊急対策)	国道431号 国富工区
土木部 河川課	7. 大規模特定河川事業	中川
	8. 広域河川改修事業	高瀬川
土木部 港湾空港課	9. 海岸侵食対策事業	三隅港海岸 湊浦地区
土木部 砂防課	10. 防災安全交付金事業	扇町地区
	11. 防災安全交付金事業	椀谷地区
	12. 事業間連携砂防等事業	山崎川
	13. 事業間連携砂防等事業	清水谷川
	14. 事業間連携砂防等事業	十日市2区
土木部 建築住宅課	15. 地域居住機能再生推進事業	湍北台地区 大輪町地区

1. 開会

2. 挨拶（土木部技監）

3. 委員紹介

4. 出席者紹介

5. 議事

<再評価委員会について>

◎委員会が成立していることについて、事務局から報告

◎再評価を受ける事業の島根創生計画での位置づけについて、事務局から説明

<環境への配慮について事務局から説明>

○（事務局） 環境への配慮について御説明いたします。

島根県では、平成15年に島根県公共事業環境配慮指針を制定し、環境保全に関する取組を強化しています。この環境配慮指針に準拠しました環境配慮事項一覧を令和5年度再評価委員会から作成しております。公共事業環境配慮指針では、環境への負担の少ない循環型社会の構築、人と自然との共生の確保、地球環境保全の積極的推進の3つを基本的な目標としています。今年度の再評価では、対象事業ごとに、各事業の代表的な工事を対象に環境配慮事項一覧を作成しています。

資料の環境への配慮の1ページ及び2ページで、工事未着手を除く14地区の環境配慮の状況をご確認いただけます。環境への配慮の3ページから6ページには、共通配慮事項の代表事例の写真をお示ししています。

また、昨年度、ご指摘いただきましたグリーン製品の利用率も算出しております。環境への配慮2ページに記載しておりますのでご確認いただけます。グリーン製品の利用率は、対象製品のあるコンクリート二次製品を使用した直近の工事でのグリーン製品の利用率を金額ベースで算出したものになります。今年度、15地区のうち、対象となる工事を行っ

た8地区が調査を行っており、うち7地区の使用率が100%となっております。

以上、島根創生計画と環境への配慮の説明を終わります。

○（事務局） それでは、議事に入りたいと思いますが、ここまでのところで何か御質問等があれば。

○（委員） 環境配慮の説明の中でグリーン製品使用率が7件で100%、1件で43%とございました。1件が何で43%なのか、教えていただきたいと思います。

○（事務局） この43%の地区ですが、道路建設課の事業で、多田～港工区となります。こちらについては美郷町に広島県が本社のコンクリート二次製品の工場がございまして、こちらの工場がグリーン製品の製造を行っていないこと、県は公共事業で製品購入の指定ができないこと、そして地元業者さんが地元製品を優先的に使われた結果と考えております。以上です。

○（委員） ありがとうございます。

1点だけ、発注される際に、この工事では環境に配慮した製品を使っていたきたいという旨はお伝えしてあるんですね。それを知らないとか、ご承知でやられたか、あるいは、承知しているんですけど経費で難しくて、対応できませんでしたと言われるか、その辺はどうだったのでしょうか。

○（道路建設課） 先ほど委員から御質問ありました、県からそういった二次製品の使用について、どういった指導をしているかという質問だったと思います。

県のほうからは、共通仕様書の中で、共通仕様書というのは、受注者に対してルールをまとめたものでございますけども、その中でのグリーン購入法、いわゆる国の定めている法律でございまして、こちらのグリーン購入法で特定調達品というものが決まっております。これは、グリーン製品と同一のものでございます。そちらにつきましても、積極的に使用を推進すること、受注者は積極的にそういったものを使いなさいというふうに定められております。したがって、県としましても、基本的にはグリーン製品を使用するように指導しているところです。

ただ、補足しますと、先ほど御説明しました、地元産の製品、こういったものも受注者は取引の関係で尊重したいというような意図もあったというふうに考えております。

基本的にはグリーン製品を使うという指導の下で、受注者もそれは認識した上で製品は使用しているということでございます。

○（委員） ありがとうございます。

そういう事情があつてのお話ですけど、基本的には発注段階でグリーン製品を使うんだよと、個別にそう言って、そういう努力をしていただきたいという旨を、言われてると思いますけど。そうしたら、どこでも自分のところで勝手にできるというイメージに限りなく近づくんじゃないかなという気がするものですから。

やっているとおっしゃったほうがいいように私は感じましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

○（会長） ご意見よく分かるところです。指導していただければと思います。

ただ、遠くから品物を持ってくる場合、運搬のときに出てくるCO₂をトータルで考えたときには、ちょっと分からないところはあるかもしれません。

○（委員） ええ、それは非常に難しい話になりますけど。

○（会長） そうです、はい。

○（委員） そうしたら、この指針の中で、例えば何キロ以上の運搬が要るようだったら、これはそういう両方の道がありますよとやられればいいですし、それは振り分け方の問題だと思います。

○（会長） そうですね。

○（委員） 基本的にこれをやるんだと、特にこういう大きい工事で明確にして、是非ともこれに協力いただきたいという姿勢はやっぱりすべきだないかと思うんです。特に目立ちます。何でよそは努力しているのに、ここはたまたまそうなったというトーンが、意識レベルが低いんじゃないかと私は思ったもので。怒られるかもしれませんが、その辺「しゃきっと」すべきと思います。

○（会長） こういうデータは一昨年まではついてなかったんですよ。これを正直に出していただけてのおかげで、そういう指摘もしていただけますし、工事してる業者の皆さんにも指導していただけるようになってると思います。ちょっとずつ進んでますよという事で。

○（委員） 承知しました。

<会長挨拶>

○（会長） おはようございます。

早速もう大分話した後なんですけど、今年度も、今質問を早速していただいたように、気になるところはもうほっとかず、遠慮せず、全部出していきましょう。それが解決する

かどうかは分からないですけども、積み重ねていけば、ちょっとずつは前に進んでいきますので、そのようにやっていきたいと思っています。

<議事録署名者の指名>

◎会長が議事録署名者を指名

<今年度の審議方法について>

○（事務局） そういたしますと、アンケート結果について説明させていただきます。資料のほうは、黄色い紙ファイルのアンケート結果というところを御覧いただければと思います。

アンケートにつきましては、3つの設問について実施しております。昨年度辞任されました2人の委員の方を除く8名の委員の皆様から御回答をいただいております。

1つ目ですが、対象事業の説明方法です。令和6年度は対象地区が15か所となっております。アンケート結果では、現状どおり、全地区書類等で説明が多数でした。

2つ目の設問です。各委員の意見具申の件数ですが、これは意見が分かれておりまして、1地区が2名、2地区が3名、3地区程度、あるいは該当地区を人数割りして全地区作成というのが3名ということでした。

3つ目の設問です。現地調査については、現状どおり、会長を除く委員が担当する1地区で計9か所というものが多数でした。

事務局からは以上です。

○（会長） では、アンケートの結果から実施方法を決めていこうと思うんですけども、説明の方法、まず、問1の説明方法ですが、事務局のほうで、再度、昨年度末に調査してもらったら15か所に減っていたということで、再評価委員のアンケート結果からも、全地区、書類は説明してもらったほうがいいと思うんですが、説明は全部してもらいましょうか、もう抽出するということはずに。

幾つやるかということなんですが、15地区で少ないので、どなたか何名かの委員さんには2件担当してもらって、全て審議対象にして再評価するようにしようと思いますが、よろしいでしょうか。

それから、現地調査ですが、これも従来どおり9か所程度。皆さんが担当される場所に行くのが理想的なんですけども、これでよろしいでしょうか。

15か所全部行くと、本当に大変で、4日とか5日とかかかると思うので。9か所なら2日で、2回で行けると思います。現地調査にぜひ行きたいなというところがあれば後で言っただいて、それを含んだ計画を事務局さんのほうで幾つか立ててもらっているの、それを後で組み込んでいけると思います。そのようにしてよいでしょうか。（発言する者あり）ありがとうございます。

（1）再評価対象事業全箇所の説明

○（会長） それでは、再評価対象事業全箇所の説明、それから審議を始めようと思います。県の担当事業課さんのほうから順次説明してもらいます。質疑応答、たくさんあると思うんですけども、事業課ごとに区切って時間を取りたいと思います。地区数が多いので、各事業課のほうでは簡潔に説明をお願いします。10分掛ける15箇所で、それだけでも150分かかるので。それと、事務局からも資料を頂いてまして、データは一応目を通してもらってます。なので、もう委員は見てるという前提で、1か所10分以内でお願いしたいと思います。説明順とか留意点については、この後、事務局から説明をしてもらいます。お願いします。

◎事務局から説明順、留意点を説明

○（会長） それでは、道路建設課から始めようと思います。事業箇所番号1から6の説明をお願いします。1か所、10分程度でお願いします。

【道路建設課から説明】

- ①(主)玉湯吾妻山線 防災安全交付金事業 大峠工区
- ②(主)川本波多線 社会資本整備総合交付金事業 多田～港工区
- ③(一)匹見左鍔線 防災安全交付金事業 左鍔Ⅱ工区
- ④(一)国賀海岸線 防災安全交付金事業 浦郷3工区
- ⑤(主)玉湯吾妻山線 防災安全交付金事業 川井2工区
- ⑥国道431号道路交通安全施設等整備事業補助（通学路緊急対策）国富工区

○（会長） それでは、道路建設課から説明していただいたことに関して、意見、質問がありましたらお願いします。

○（委員） 川井2工区で、写真を見ていると、ヘアピンカーブを外すために、高い山のほうに向かって道路がつくように描いてあるんですけども、平面を見ると、もっと低い位置でも、上まで上がらなくても道路がつくんじゃないかなってというような気がするんですけど、これはどのような見解でこのような計画になったのでしょうか。

○（道路建設課） すみません、確認でございますが、赤い線がもう少し下側でも良いんじゃないかというような御質問でしょうか。

○（委員） そうですね。

○（会長） 委員が言われるのは、わざわざ何か切土多いところに向かって突っ込んでいってるなっていうことですか。

○（委員） そうです。今の質問で、現道から計画の道路の高さ、これはどのくらいなんですか。高いところに道路がつくと、結局盛土もたくさんなくちゃいけないんじゃないかなと思うんですけども、それだったら下げれるところまで下げて、その地盤の状況分からないんですけど、できればそっちのほうが合理的かなって思いました。以上です。

○（会長） 何かお答えがありますか。

○（道路建設課） 現在のヘアピンカーブですが曲率半径で $R = 15$ と非常にきついカーブになっています。今回、これを $R = 60$ に緩和し、それを考慮した結果が現計画線となっています。掘削量を極力抑えるとは御指摘のとおりであり、この残土も近くの谷に盛るような計画になっておりまして、有効的に施工はしようと思っております。

○（委員） 分かりました。また現道との高さが分かれば教えていただければと思います。以上です。

○（道路建設課） はい、分かりました。

○（会長） 何かぱっと図を見ただけだと、起点から終点まで何か真っすぐ行きたい図面に見えるんですよ。

○（道路建設課） ヘアピンカーブ箇所を回避するように谷部をショートカットするということでしょうか。

○（会長） はい、そこを何か真っすぐ行けば、そんなに山に突っ込まなくてもいいように見えるんですけど、何か理由があるんですよ。

○（道路建設課） こちらの谷が深いので、橋梁とかそういった構造物が必要になる可能性があります。

○（会長） 相当谷が深くて、橋梁にするとコストが高くなるということですね。

よろしいでしょうか。

○（委員） はい。

○（会長） ほかに何かありますか。

○（委員） ちょっと関連です、確認しますけど、あそこの写真で見ると、左から上がってきて、山のオープンカットに向かっている。

○（道路建設課） はい。

○（委員） さっき会長も言われた、あそこは谷なんですか、真っすぐ行きたいけれども。何か大きな谷がありますか。そこから真っすぐ行ったらいいじゃないですか。

○（会長） そこです。

○（道路建設課） ここは谷になっています。

○（委員） 要するに事業費が1m当たり285万円なんです。それで、その残土処理に相当の費用が掛かっていると思いますが、例えば谷があつて橋梁を架けて、もう少し上へ振らずに真っすぐ行くような曲線でいけば、今多分、設計速度の関係でああいうRを取っていると思いますが、大きな谷がないとすれば、橋架けてでも真っすぐ行ったほうが、後々の維持管理上も、その、玉吾妻だと真砂土だと思うんですね、真砂土は崩れやすい。これを5段、6段カットしてるから。写真によるとちょっと上部を削っただけだから、まだ変更の余地があると思う。

もう一つは、下を通ったらどうなるか、工事費の比較をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○（道路建設課） 谷部の箇所を通過して最短距離で結ぶと道路の延長が短縮されますので、勾配が逆に急になります。現在の計画の縦断勾配が9%程度になっておりますので、これをショートカットするとかなり急になりまして、道路の規格から外れるということになります。

○（委員） 今、縦断勾配は9%ですか。

○（道路建設課） はい。

○（委員） じゃあ、今計画が9%だったら、今私が言った代替案は無理ですか。

○（道路建設課） はい。

○（委員） 12.5%ぐらいになるわけですね。それは無理でしょう。

○（道路建設課） はい。

○（委員） 線形的には勾配と高低差と延長であれくらい回さないと勾配が取れないこ

とは分かりました。

○（道路建設課） はい。

○（委員） もう一つ、残土処理を、この文書では、近隣の公共工事へ利用してコスト削減を図ると書いてありますけども、現実に使うところはあるんですか。

○（道路建設課） 個別で決まってるという意味合いでしょうか。

○（委員） いや、計画があって使ってるのか、言葉だけなのか、その確認です。相当の量があるはずなんだけど。

○（道路建設課） 今、掘削している箇所なんですけど、今後の残土量として6万5,000立米ございます。こちらについて今、雲南管内の盛土をやるような工区や、玉湯吾妻山線の北側になるんですけど、松江管内も含めて大きな盛土工事がある箇所へ各工区の工程等状況を見ながら流用調整をしていく予定で進めていこうと思っています。

○（委員） ならあるんですね。

○（道路建設課） はい。

○（委員） 分かりました。

○（会長） じゃあ、僕もちょっと聞いてみたいことがあるんですけど、全体的なことなんですけど、玉湯吾妻山線のところで、第1次緊急輸送道路というのが出てきていました。前に聞いたことあるかもしれないんですけど、これについて教えてくださいか。1次もあれば、2次もあれば、そういう感じなんですか。

○（道路建設課） 緊急輸送道路について御質問だったと思います。委員長御指摘のとおり、1次、2次、3次というふうに指定してありまして、主なものとしましては、1次だと国道ですとか山陰道も含めまして、いわゆる主要な市町ですとか、そういった主要拠点を結ぶようなものを1次というふうに位置づけております。それを補完する道路としまして、主要地方道ですとか、玉湯吾妻山線も含めました中山間部の主要な県道を第2次、第3次というふうに位置づけてありまして、そういった位置づけで緊急輸送道路網というふうに指定しております。

○（会長） じゃあ、今回は書かれているのはこの箇所だけですね、1次である。

○（道路建設課） 正確にはほかにも指定してあるところがあるかもしれませんが、特段の目的として、主要なものとしてお示ししているものは書いておりますし、緊急輸送道路にほかにも指定してあるものもある、確認すればあると思います。

○（会長） じゃあ、また分かれば、この6工区でしたら教えてもらえますか。

○（道路建設課） はい、分かりました。

○（会長） ほかに質問は。

○（委員） ちょっと分からないのでお伺いするんですけど、2つ目の川本波多線ですかね、道路冠水が直近3回あったということなんですけど、今回、今やっている工事によって道路冠水はどうなるのか。要は、江の川の何か工事を別途にしないと冠水が起きなくなるんじゃないかなと思いますので、じゃあ、この道路工事によって冠水がなくなるのか、そこら辺をちょっとお聞かせいただけませんか。

○（道路建設課） 今回の前の図面に示しております工区の2.88km、こちらについては、江の川の計画高水位より高い位置に道路を設置するというので、現道のかさ上げも含めまして工事をする予定にしております。ですので、今回のこの2.88km区間につきましては、江の川の洪水に対応している高さに計画しているというところがございます。

○（委員） じゃあ、この工事によって道路冠水が起きなくなると、こういうことですね、そのための工事をしておられるということですね。分かりました。

○（会長） 今の続きなんですけど、写真で令和2年7月の冠水の写真が。

○（道路建設課） はい。

○（会長） この地点は、もう橋を渡ってしまうから、ここはもう沈んだときは沈んだということになっておくわけですね。

○（道路建設課） おっしゃるとおりで、いわゆる主要な経路は、赤い線で結んでおります江の川をまたぎまして、既に供用している紫の区間というところで冠水区間を回避するというようなルート設定になっております。ですので、現在の冠水区間はそのまま、実際には冠水時にはそちらには案内はしませんけども、そのまま残るといったような状況でございます。

○（会長） ということのようにです。

ほかに何か。

○（委員） すみません、6番の国富工区のことと教えていただきたいんですけども、今回この事業、再評価区分が前回の再評価から5年後ということで、たしか私、前回の再評価のときもこの場において御説明いただいたという記憶があります。そのときにさせていただいた質問で、この工区実施する湯谷川の付け替え、ここから少し下流のところ湯谷川の改修工事がされておりますけども、その関連について質問させていただいて、何らか

の連携をしているということをお聞きしたと思います。

たしか、私の記憶では、そのときの回答では、特に連携をしていなくて、湯谷川の河川の改修が上流に進んで、この工区に達したときに、この工区の河川についてまた検討するという事だったと思います。今回、それから5年経過してということなんですけども、この工事で実施する湯谷川の付け替えですね、それと湯谷川の河川改修の関連というか、何か連携が進んだとか、そういうところを教えてくださいませんか。

○（道路建設課） 湯谷川の河川事業は下流をやってまして、現在、道路事業は歩道をつけるということで、おおむね現況の川幅のまま河川を付け替えており、河川事業が上流に上がってきたときにまた検討するという事は当時と変わっておりません。

○（委員） そうすると、もしもその河川改修が進んでいったときに、今回付け替えたのをまた改修するという事もあり得るということですか。

○（道路建設課） 今はまだ河川整備計画が決まっておりませんで、現状では分からない状態です。

○（委員） 少なくとも河川改修を見越した付け替えにはなっていないという。

○（道路建設課） はい。

○（委員） 分かりました。

○（会長） もうほかに質問ないですか。

どうぞ。

○（委員） 関連して国富工区で、通学路交通安全プログラムをあまり把握してないんですが、通学路向けってということで、例えば自転車が通れる道を造るとか、ガードレール造るとか、そういうのはあるんでしょうか。

○（道路建設課） 通学路交通安全プログラムというのは、交通対策で、道路管理者と警察と教育委員会で危険な箇所を年に1回、2回程度集まって、現地も含めて確認するものでございまして、そこで対策が必要になりましたら、ラインを引き替えたり、防護柵をつけたり、そういったこともやる場合がございます。

○（委員） それじゃあ、この地区の特にそういう危険箇所として抽出されたところはそういう対策も、プラスのそういうのも入るということですか。

○（道路建設課） はい。

○（委員） 分かりました。ありがとうございます。

○（会長） ほかはどうでしょうか。

○（委員） 4番の国賀海岸の浦郷3工区ですけど、ここの現地も分かります、大体路線は分かるんですけども、ひとつですね、令和8年度供用予定ということで図面になるんですけども、用地の買収率が50%で、相当残ってるんですよ。全線の50%ということなのか、令和8年度供用開始予定のところが、ほとんど用地買収が残ってるんじゃないかという気がします。ただ、この供用が済んでいる紫のところがほぼ山だから、そう揉めなかったか分からないけれども、この8年度までに工事するところは牛舎があったり、私有地だったりして、今、用地買収が難航してますか。

○（道路建設課） お答えします。令和8年までに供用する区間につきましては、全て用地買収が完了しております。拡幅部分については全て完了しております、現在用地買収が残っている区間は全て落石対策に係る山の斜面の部分でございます。当初予定してなかった落石対策の部分が事業着手後にしばらくたってから追加になりましたもので、そちらの用地買収が残っておるという状況でございます。

○（委員） 分かりました。じゃあ、本線の道路部分はもう終わってるんですね。

○（道路建設課） はい、そのとおりです。

○（委員） 11年度まで施工する斜面の部分がまだ残っていると。

○（道路建設課） はい、そちらが残っております。

○（委員） 分かりました。

○（会長） どうぞ。

○（委員） 先ほど環境対策で、こういう改良されているという紹介ありましたが、壁の何とか化とか、環境省の指導があつてこうしたという場所のお話でしたが。最初のコンクリート壁の改良って環境に優しいというか、それはどういう内容のものか教えていただければ。

○（道路建設課） こちらの浦郷3号区が国立公園の特別地域に指定されておまして、環境省の許可を取って計画を立てる必要がございます。その中で、護岸、河川の付け替えが一部ございまして、そちらの護岸のブロックについて、ポーラス型といまして、空隙の多いコンクリートブロックを使用するよという指導を受けております。空隙が多いと、植物や動物も生息がしやすくなりますといったことで、そういった提案がなされております。

○（委員） 分かりました。ありがとうございます。

○（会長） それでは。

では、お願いします。

○（委員） 2点お願いします。1点目は、グリーン製品の、3番でしたか、グリーン製品対象商品がないので使用してないということの御回答をいただいたんですけども、今説明いただいた中で6番もグリーン製品の使用がないってということですけど、その辺りのどうしてなのかをお聞きしたいなど、お願いします。

それともう1点は、同じく3番の、対象商品がないのでグリーン製品使われてないと伺ったんですけど、本当にちょっと素人目で、もしかしたら全く予算がないとかってということなのかもしれないんですけど、今回の事前の質問で、この5年間に進捗が10%もないところというのが結構あるように思って、そのことを質問させていただいたんですけども、例えばなんですけども、3番目の匹見左澄ですかね、これを見ますと、全体の延長が0.61ということですから、610mの工事区間だと思うんですけど、この5年間、再評価、今回あった5年間の間の進捗率っていう、10%ないという数字なんですけども、そうすると、単純に考えますと、この5年間に10%、仮にこの610mの10%を考えたら100mちょっとの気がするんですけど、それでそれを単純に5年間この工事をしたと考えたら、20mとか30mしかこの5年間に工事をしていないという感じになるんじゃないかなと思って。

昨年、私、何年かこの委員させていただいたんですけど、予算が取ってこれないと事業がなかなか進捗できないっていうのを初めて知ったんですけども、なので、「たった」って言ったら失礼かもしれないですけど、610mに再評価がかかっている、さらにまた今回再評価になっているのにもかかわらず、その進捗がたったそれだけっていうのが。雪深いですとか、御説明あったと思うんですけど、一県民の目線から言うと、それがどうしてそのようになっているかっていうか、全体の事業費も約6億ですよ。それが610mでしたら、単純に考えたら、100mを1億でしてると素人的に考えたんですけども、何ていうんですか、工事が遅々として進んでないことがとても不思議ですけど、生活の重要な道路だという御説明もあって、何かその辺がちょっと全くよく状況が分からないということで、その辺を教えていただけたらと思います。

○（道路建設課） そうしましたら、委員からまず御質問ありました、グリーン製品の対象がないのかというような御質問だったと思います。

今回のグリーン製品の利用率につきましては、技術管理課のほうから調査の条件が既に示されておりまして、各工事で直近の一工事、工事は過年度から複数年度やっております

けども、直近の工事で、すみません、正確にはちょっと、水路とか道路と歩道の上に設置する歩車道境界ブロック、こういった条件を指定されておまして、そういった製品で使ったかなかったかと、直近の工事ですね、というような調査依頼、調査まとめでございませう。

ですので、今回の3番の工事につきましては、いろいろコンクリート製品は使っております。使っておりますが、今回の調査まとめとしましては、道路の水路ですとか、歩道と車道の上に設置する歩車道の境界ブロックですとか、そういったものを使用しなかつたので該当がなかつたというふうにまとめさせていただいております。よろしいでしょうか。

それと、委員からご質問のありました3番の工事の進捗率でございませう。これについては事前にご質問をいただいております、今ここでお答えをさせていただきたいと思ひませう。

まず、前回の評価時から10%しか進捗率が上がらない理由というところでございますが、一番大きいのは、落石対策工事、これに係る費用が前回時より見直したために増額したというところでございます。こちらの進捗率というのは、いわゆる事業費ベース、お金で幾らかかつたかというところ進捗率を今回は示しております。その中で落石対策に係る費用につきましては、前回は幾らかは見込んでおりました。ですが、前回の調査後から、今回もう一度、斜面の状況、こういったものをもう一度詳細に調査をしまして、前回調査後、また新たに斜面の風化が進んだり、落ちそうな石が発見されたりというところ、この落石対策に係る費用が前回より膨らんだというところが主な要因でございます。

補足で申しますと、河川の付け替え工事もおまして、こちらの川は、前回の再評価時にも理由は御説明したと思うんですけども、ヤマメやアユの漁期に係るということで、川の付け替え工事が実際に3か月程度しか現場で行えないという条件の下、工事を進めておりました。実際にその3か月の工期で、正直なところ、もう少し工事が進むというふうに見込んでおりましたが、やはりちょっと想定より工事の期間が厳しいということで、川の付け替え工事もちょうと遅れたというところも理由でございます。

委員から事業費の内訳も御質問いただいております。こちらの全体は5.8億円でございませうけども、内訳としましては、いわゆる道路を盛ったり、舗装をかけたりするような道路改良に係る費用が2.5億円、今回は道路を広げるために川の付け替えを行いましたので、この川の付け替えに係る費用が1.3億円、残る2億円が新たに落石対策に係る費用として、見込んでいた額よりちょっと増えましたが、2億円程度、落石対策費と

して見込んでいるとでございます。以上でございます。

○（委員） ありがとうございます。

今、アユですとかヤマメの漁期を考えて3か月しかないというのは、全体に漁期っていうのは多分6月から9月と思うんですけど、それ以外に積雪がある時期を除くともう3か月しかないということではしゃいますね。

○（道路建設課） 実際に地元の漁協さんと工事前に打合せをさせていただいております。その中で、アユの漁期は、委員おっしゃられるとおり、夏場から秋にかけてでございますが、冬場12月までのところで、次の漁期に向けて稚魚を放流されるというようなこともされるというところで、そういった稚魚の放流と漁期、こういったもの両方を条件として、実際に漁協さんとお話しさせていただいた結果が、12月から2月、こちらの3か月間であれば工事をしてよいというような協議結果になったということで聞いております。

○（委員） ありがとうございます。

○（会長） よろしいでしょうか。

それじゃあ、道路関係のお話は今日はこの辺にしとこうと思います。

〔 昼 休 憩 〕

○（会長） それでは、引き続き河川課からの説明をお願いします。

【河川課から説明】

⑦中川 大規模特定河川事業

⑧高瀬川 広域河川改修事業

○（会長） ありがとうございます。

それじゃあ、今の2つの事業について質問とか御意見あればお願いします。

委員、お願いします。

○（委員） 中川の改修工事は、地形的な場所もよく存じておるところでございます。この中川は、住宅団地を流れているところで、断面を見ると、現在2mのものを2.1mに拡幅をするということですから、ここは湊北台じゃなくて、法吉の団地、あの辺の水がまともに受けますので、この辺りを2.1mに広げれば、隣の住宅団地等の浸水は防御できる

と思います。

ただ、計画では、昭和47年の洪水に対応したいと記載がございますけども、排水路というのは大体下流から整備をしていきますよね。これは最上流部を広げる。図面を見ますと、これが四十間堀川へ出て、これが宍道湖へ出るんですけども、残念ながら宍道湖へ出るところは交融橋から下っていくと、また非常に狭いんですよ。ましてやカルバートボックスのはずですから、幅が、横には3mぐらいしかないかな。末端にポンプがあるんですけども、私の考えでは、強制排水で宍道のほうにポンプで流さないで、この水位は下げられないと思います。そうすると、この中川の治水対策の区域と、それから下った黒田町も考えると、相当な排水量のポンプを持ってこないと恐らく47年の水位対応にはならないと思うんですよ。

前にも質問したんですけども、末端の排水ポンプ、いつだったか朝酌川は相当大きなポンプに替わりましたよね。恐らくあれくらいのポンプ場を構えないと、黒田町一体の治水対策は不可能だと思うんですよ。それが併せて事業が進んでますかという問いを5年前にしました。それで、交融橋という橋がありますよね。あそこはちょっと狭いので、この事業であそこを広げるというのはあったんですけども、途中の障害を広げるけども、最終的な末端の排水計画、これがどうなっているか検討していただきたいという提言をしたんですよ。それが具体的に黒田町全体の治水計画という計画があつて、それは別事業で計画が立てられるのかいうことを確認したいんですけど、お願いをします。

○（河川課） 今御質問あった末端の排水計画ということですが、現在も、さっきおっしゃってましたが、四十間堀川という川につきまして、これも今、事業を着手しております。現在は設計等を行っているところでございます。まだ詳細な詰めまでできてないですけども、一番下流に排水ポンプあったほうがいんじゃないかという御質問ですけど、今の設計では排水ポンプまではつける計画にはしていない状況でございます。

○（委員） すみません、それはつけなくても排水できるという……。

○（河川課） 今の四十間堀川は、拡幅するといいますか、今の幅を倍にするというような計画をしております。それをもって今、排水ポンプまではつけなくても大丈夫という、これは計算結果でございますが、そういう、設計になっているところです。

○（委員） 加えて言うと、そういう設計であれば、というのは、市役所建て替え問題のさなかでしたけども、新しい市役所の横を川で閉じたところにポンプがあります。その横に松江の土地改良区が入ってるビル、その横に環境保健公社とか、それからコープビルが

あったんですよ。それで要所押さえないと、あの辺、遊水地で、ああいった面積要るよという話をしたけども、残念ながらマンションが建ちましたよね。あそこへマンション建てるより遊水地にしないと、相当な遊水地を構えないとポンプ制御はできないと思うんですよ。

そうすると、あの辺の用地をもう押さえることを進めないと、設計図描いたけれども用地の確保ができないということにはなってはいけませんので、粛々と四十間堀川を広げると言われるけども、広げたら、最初の排水計画、これをきちんと立てて市民説明もされて、あの用地を押さえるということは早く手を挙げたほうがいいかなという気がします。私の頭の中でも相当の遊水地がないとポンプが空運転すると思うんですよ。その用地買収計画も早めに立てられた方がいいのかなという気がします。よろしくお願いします。

○（会長） まず、順番が違うよっていうことですよ、下流から行きましょうということですよ、最後のかくつとなったようなところを。

○（委員） 当面上流の治水は終結すると思います。ただ、それが今度は下流に影響を与えるかなと。その下流域の47年の豪雨には全部浸水してますから、それを考えないと、上はよくなったけど、自分とこはどうしてくれるの、当然皆さん言われると思います。そのことを早く公表したほうがいいかなというふうに思います。

○（会長） この標準断面で宍道湖に当たるまでっていう計画になってますか。

○（河川課） あくまでこの標準断面は、中川の事業区間の標準断面でございまして、宍道湖に至るまでの標準断面ではございません。

○（会長） でも、同じ程度か、もうちょっと広くならないとあまり意味がないっていうことですよ。それでも、委員のお話だと、ポンプ使わないとまだ間に合わないでしょうということのようですね。それは、担当された委員さんに要望として入れていただきましょうか。計画が大分大きく変わりますので。

○（委員） 何か黒田街道の方々は、47年に水没した、あの辺を、私、昔の土地改良会館で仕事してましたので、あの高さでいうと、黒田川を出てくるあの橋の高さですが、どうもあちこちマンションが建って、今度大手スーパーができて、あそこはもう床上浸水します、あの高さでは。相当域の大きな流域を考えた治水計画を立てないと、この団地の方々も浸水がなくなると言われるか分からんけども、これが下流に与える影響を評価すると、この水は高いところから低いところに流れますので、四十間堀川を通じて宍道湖へ出すんですよ。これは強制排水しかないんですから。

○（会長） それでは、この事業に当たった委員さんにはその辺も考慮していただいて、要望のところ。

○（委員） 広域的な治水計画を早く立てられないと、上流はよくなったけど、自分らのところはどうかということ、次第に声が大きくなるかなという気がします。

○（会長） ほかにはないでしょうか。

○（河川課） 昨年ですけれども、そのように上流を整備して下流を整備しなければ下流に負荷がかかるんじゃないのかという疑問を松江市のほうから受けまして、一応シミュレーションということで、計算上どのぐらいかは整理をしております、今のところ、上流を整備したことによって、下流への影響は僅かということで整備は進めております。

実際、ここの河川改修は、床上浸水を一応床下浸水までに抑えるという計画にしておりますので、なかなか、全体的に松江市というところは土地が低いところですので、全ての浸水を避けるという計画にはならないところをお許しをいただきたいと思います。以上です。

○（会長） 検討はされているということですね。

○（委員） すみません、今のお話とちょっと関連するんですけども、この委員会とかで河川整備のお話を聞いてると、下流からやるっていうのは、何ていうか……。

○（会長） セオリー。

○（委員） セオリーっていうことをよく聞くんですけども、ここは、この中川のほうからされていて、また下流のほうはこれからということなんですけども、なぜここだけこの中川からされるというふうになったのでしょうか。

○（委員） ちょっと口を挟みますけど、多分これ、河川課の計算だと、10年確率の運用で何ミリって計算すると、先ほど言った降雨、法吉のほうから水が入ってくるから、この2mの幅では当然オーバーフローしますよね。このオーバーフローした水が、いわゆる床下とか、あの辺の住居を浸水させてたんです。だから、ここを21mに広げると、ここは助かります、河川の断面計算でいくと。ただ、長期で宍道湖の水位が上がった、例えば松江が700ミリ降ってますからね、47年に。それぐらい降ったときには、ここで一回池になります。

今、言われたけども、上だけ直して、全域的な計画はないのに、なぜ上だけ先に広げるのということにすると、ここだけを2mを21mにすれば、この周辺の住宅だけは、今の大きな雨が来ない、その基準、10年確率で計算した雨はしのげます。今その断面計算で、

ここはしのげるという計算をしてあるんですよ。広域的に停滞したときにどう排出するのというのが、委員さんも私も今同じ質問をしとるところです。だから、委員さんが直接言われたけれども、そういう計画がないのに上流からやるのは乱暴じゃないかと、こういうことじゃないかなと思います。

○（会長） という御意見ですね。以前からそのように決まっていたことなんだろうとは思いますが、全体のシミュレーションでも、まだ床下までは来るってということなんですよ。

○（河川課） そうですね。

○（会長） やっぱり自分の家だと思ったら、床下まで来るのも嫌でしょう。

○（委員） ちなみに、その今スライドに出ている事業概要のところ浸水被害解消を図ると書かれているんですけど、解消は、じゃあ、床下はあっても解消という今意味合いで捉えてるんですかね。

○（河川課） そうですね、中川については、もう床下を許容して被害の解消を図るところでされております。床下許容をなくすと、かなり広い川になりまして。

○（委員） そうですね。

○（河川課） 家がなくなるといいますか。

○（委員） いや、なので、すみません、もう言葉尻を捉えるようで申し訳ないんですけど、解消って言われてみると、恐らく一般的な感覚でいうと被害がなくなるというイメージがあるので、被害の低減であったりとか、本当に具体的に床上の浸水はなくなります、床下浸水に抑えらるってかかっていう書かれ方をされたほうがいいのではないかなとは思いますが。

○（河川課） ありがとうございます。

○（会長） よろしいですか。

○（委員） それとはまた別で、もう一つ教えていただきたいんですけど、さっき上流側を改修することで、下流側にはそんなに影響がないということをお話があったと思うんですが、何っていうか、影響が少ないということは、多少なりとも影響はあるのかなというふうに思ってて、そういうふうに影響があるってことは、その事業をやることによって、負の便益というか、マイナスの面も出てくるという、下流域に、それもあるかと思うんですけども、そのとき、マイナスの部分というのは費用対効果の分析にも入っているんでしょうか。

○（河川課） ちょっと調べてみないと分からない、そこまでは多分入ってなかったと。浸水エリアを切っていくので、その中にある家とか道路とかを算定しております。

○（委員） この事業のためにですね。

○（河川課） はい、事業関係でB/Cを出しております、下流まで、この浸水エリアで幾らかかるかということを出してますので、この下流に関してはBのほうに入ってこないという計算になっております。

○（委員） 分かりました。ありがとうございます。

○（事務局） すみません、事務局からですけども、事前に質問いただいた件がありますので、その辺、河川課のほうでお願いいたします。

○（河川課） 委員からの、進捗が10%も進んでないというところでまた意見をいただきまして、回答をさせていただきますけれども、要因としては、現地調査をした結果、河川も掘ってみないと分からないところがございまして、掘った結果、地盤改良が必要だったり等ありまして、なかなか工事が進まなかったという点と、またこれも出水期外して10月から6月までの工事しかできないというところで、なかなかちょっと工事の進捗が進んでなかったというところが原因となっております。

○（会長） これでよいでしょうか。

○（委員） ありがとうございます。

○（会長） それじゃあ、高瀬川のほうはどうでしょうか、何か聞いておかないといけないことはありますか。

○（委員） よろしいですか。

○（会長） どうぞ。

○（委員） またグリーン製品なんですけども、高瀬川のところ何もないんですけど、さっきの御説明ですと、直近の工事で、水路ですとか境界ブロックを使っていないというんですけど。

○（河川課） はい、ですね。断面に水路等が載ってるんですけども、ちょっと調べたときの工事には載ってなかったということで、申し訳ないです。

○（委員） 実は先ほどのどちらか、2番ですか、同じように別のものを使っているということでもいいんですか。

○（河川課） いや、工事的にはちょっとそこまで調べ、突き詰めてないんですけども、ちょっともしかしたら、この直近の工事じゃなくて、調べたらグリーン製品使って

いるかもしれないです。

○（委員） ありがとうございます。

会長さん、先ほどこのグリーン製品の利用率っていうことで、直近の工事で水路ですとか境界ブロックをグリーン製品から使っていることがこのパーセンテージということ、私、初めて聞いたんですけど、今回そのように、一つの物差しとしてされたっていうのは、やっぱりグリーン製品の中にあまり部材がなくて、そういう境界だとか水路とかっていうものはある程度グリーン製品があるからというところで、物差しにされたのかなっていうのをちょっとお聞きしたいんです。

○（会長） これは事務局さんのほうで。

○（事務局） 事務局のほうからちょっと説明させていただきます。

本日、グリーン製品の紹介ということでパンフレットをお渡しさせていただきました。そちらの4ページを見ていただきたいんですけど、こちらのほうはグリーン製品に登録されている製品一覧でございます、この中でやっぱり水路ですとか大型のがあるんですけども、主な製品が水路ということですので、よく使う製品、水路とか歩車道境界ブロックということで選定させていただいております。

○（委員） ありがとうございます。

○（会長） 結構いろいろあるのはありますね、水路なら。

○（委員） そうですね、水路ならという感じです。

○（事務局） なので、水路に絞って調査をしている。

○（会長） お願いします。

○（委員） すみません。40ページで、環境への配慮で地盤沈下の話があるんですけども、どちらの事業にも関連して、結構工事始まってから時間がたってますけども、どちらもその辺の地盤沈下の発生とかは報告はされてなくて問題はないということでしょうか。

○（会長） 40ページですね。

○（河川課） ちょっと今、対策を取ったところの地盤沈下ですね、その下がったという報告はまだ受けておりません。

○（委員） 今までの工事したところも結構年数が経ってるともありますけど、特に近隣の家屋は、そういう報告は特にないということですか。

○（河川課） 全部は確認ができておりませんが、報告は受けておりません。

○（委員） 分かりました。ありがとうございます。

○（会長） それでは、もう御意見ないようでしたら、河川に関する審議はこれで終わりにしようと思います。ありがとうございました。お疲れさまです。

それでは、次は、港湾空港課のほうからの説明をお願いします。

【港湾空港課から説明】

⑨三隅港海岸 湊浦地区 海岸侵食対策事業

○（会長） ありがとうございました。

それでは、委員の皆さん、質問ありましたらお願いします。

○（委員） 昭和60年頃から、何ていうか、砂浜が後退をし始めたということなんですけど、その要因というのはどういった形で、何かあったからこういうことになったのか、普通に何もないうちに後退することはないなと思うんで、その辺りをちょっとお聞かせください。

○（会長） お願いします。

○（港湾空港課） 海岸侵食のメカニズムについてですけれども、一般に海岸侵食は、海岸の土砂収支のバランスが崩れることで発生します。三隅川の上流ダムの建設、河川整備等により、河川から土砂供給量が減少したことが原因の一つとして考えられます。また、三隅港に900mの防波堤がございます。三隅港海岸がこちらで、その西側、北西側に900mの防波堤がございます。この防波堤の建設の時期と海岸侵食が始まった時期っていうのが重なってございまして、防波堤の建設による波の遮蔽域の形成も侵食に影響しているものと考えています。様々な要因が複合的に作用して海岸が侵食されたものと考えております。

○（委員） 分かりましたが、基本的には人がやったことが原因で、今度は自然が失われるというか、そういうことなんですかね。

○（港湾空港課） はい、そう考えております。

○（委員） 分かりました。

○（会長） 中国電力の堤防、突堤、沖の防波堤があんなに長くできたことで何か流れが変わってということですか。

○（港湾空港課） はい、それも要因の一つとして考えています。

○（会長） そうすると、海岸のほうじゃなくて、三隅港のほうにたまり始めるということですか。

○（港湾空港課） はい、実際、三隅港のほう、砂がたまるので、定期的に土砂の浚渫ということをやっております。

○（会長） じゃあ、続けて、すみません、養浜をされる場合はそういう動きになりますか。

○（港湾空港課） そうですね、養浜の材料については、港内の浚渫土といったものを流用してコスト縮減というのを図る計画としています。

○（会長） ありがとうございます。

○（委員） 前回もこの現地を見たんですけども、今の三隅発電の沖堤防を見ると、この前のこの潮の流れの方向は、砂の動きでだいたい違うんですけども、これ、反対じゃない、ということはこの前言ったんですが、田の浦海岸とか砂がたまってるんです、一番右端に、砂がたまってますよね、何か休憩所があって皆さん行ってみましたよね。その沖合の離岸堤を今、まだ工事中ですよ。だから、あそこの砂は多分流れ出ないでしょうから。

恐らく三隅発電の沖堤防によって、あそこに流速ができて海流の速度が変わって、恐らく砂が流れ出したと思うんですよ。以前からこの離岸堤の設計、見せていただきましたけど、以前よりその水位が高くなってますよね。要は、水位の高さと陸上までの距離、これで計算がしてあるんですよ。理屈で言うと、離岸堤の高さを上げないと。水位が上がれば離岸堤の高さを上げないと理屈が合わないんです。やっぱり押し寄せて護岸を削るんです。

昨年、稲佐の浜は見ましたけども、波を砕いてこの道路を守りたければ、景観保全はあるか分からんけども、やっぱり消波ブロックで波を砕かないと、この沿岸の道路を守るということは無理だなという気がします。景観配慮という意味合いと護岸を守るということがどうかなと。ましてや、ここへ砂浜を復活させたいということで、ちょっと無理があるんじゃないかなという気がします。

この前見たときと、あまりに砂のたまりが変わってないもんですから、5年前と。沖合の離岸堤の効果はそう見られないというふうに思います。ためたければこの離岸堤の上に消波ブロックを、水面に出して、波を砕いて、海岸の侵食力を落とすという手じゃないと無理かなという気がします、いかがでしょうか。

○（港湾空港課） 現在の離岸堤、整備をやっているところなんですけれども、計画だと来年度、離岸堤のほうの整備が終わります。次の段階として養浜ということを考えているんですけれども、その養浜を行うに当たっては、これまでに整備した施設の配置によって地形の変化とかもございますので、地形変化の実態の把握を行いまして、整備効果の検証を行って、実際、現在の、今おっしゃるように、人工リーフだけで大丈夫なのか、もうちょっと天端の高さを上げないと、背後の波の波高が低減出来ていないんじゃないとか、そういったところも効果の検証を行いまして、離岸堤の次の整備のほう、養浜について考えていきたいと考えております。

○（委員） 砂はどこから運ぶんですか。

○（港湾空港課） 養浜の材料でございますか。

○（委員） 養浜のために。

○（港湾空港課） 養浜は三隅港で浚渫した砂のほうをこちらに持ってきて、コスト縮減を図ろうと。

○（委員） まだ持ってきてないんですよね。

○（港湾空港課） まだこれから、今現在、潜堤のほうを整備しておりまして、養浜についてはまだ何も現地のほうは着手しておりません。

○（委員） 分かりました。それ、持って来たけど、全部流れちゃったでは意味がないかなという気がするものだから、今の段階だと、持ってっても波が持っていくかなということが想定されますけど。

○（委員） 確認なんですけど、平成25年に離岸堤がまず3基完成されてますよね。その目の前の箇所に関しても、まだ養浜というのは一度もされてないということですか。

○（港湾空港課） 前のスライドを表示させましたけれども、赤で着色しているところ、離岸堤3基背後の、赤で着色した養浜の箇所ですけれども。

○（委員） はい、そうです。

○（港湾空港課） こちらについても、まだこれからになります。

○（委員） ああ、そうなんですな。

それはやはり、左側の平成30年までかかっていたところの工事とかがあって、同時に行うのは難しかったということなんですかね。すみません、もう先に潜堤ができているのであれば、そこでどうせ西のほうのほうですか、左側のほうの浚渫を行わなければいけないの

であれば、もう先に養浜をしてしまって、そこで、いわゆる砂の流れというか、そういうのも見れたんじゃないのかなと思ったんですが。

○（港湾空港課） 一応、沖合消波施設全体を配置して、全体の海岸として施設の効果がどのようになるかというところを検証した上で背後の養浜を考えております。

○（委員） そうなんです。ちなみに、写真の左側の浚渫されている砂っていうのは、どこかに養浜用にストックされているとかでもなく、どこかから別のところで再利用するのに持っていつているという形なんですかね。

○（港湾空港課） そのとおりです。

○（委員） 分かりました。

○（会長） もしかしたら、潜堤ができた段階で砂がつくかもしれないということはありませんね。

○（港湾空港課） そうなるのが一番望ましいとは思っております。

○（会長） ほかに御意見ないようでしたら、これで説明終わらせてもらおうかと思えます。ありがとうございます。

○（会長） では、次は砂防課さんですね。お願いします。

【砂防課から説明】

⑩扇町地区 急傾斜地崩壊対策事業

⑪椋谷地区 急傾斜地崩壊対策事業

⑫山崎川 事業間連携砂防等事業

⑬清水谷川 事業間連携砂防等事業

⑭十日市2地区 事業間連携砂防等事業

○（会長） ありがとうございました。

それでは、今説明していただいた事業について、質問があればお願いします。

○（委員） 砂防堰堤ですが、これは泥がいったまったら、取る体制のものでございますよね、この堰堤自体。要は、堰堤にたまりますよね。いっぱいになりました、取ってくださいというのは可能な堰堤というふうに見ればよろしいですね。

○（砂防課） そうですね、今回の山崎川、清水谷川、両方とも管理型堰堤となっております。

りまして、管理用道路を設置しまして、実際に土石流が発生して捕捉した際には、除石を行うような計画となっております。

○（委員） ありがとうございます。

もう1点だけ、土砂崩壊の箇所があるという形で、止めをされるんですけども、このケースは結構ある程度の人家があるようにお見受けしましたが、例えばこの崖崩れの場合、例えば1軒しかお家がないと、対象箇所が。道路もありませんといった場合、だけど、何らかの形で守ってあげないといけない場合に、発想を変えて、お家の転居とか、そういった方法論というのはありますでしょうか。トータル経費はお家の転居したほうが安くつく。それを放棄して、家だって転居してもらいましょう。そういう方策は、今はないような気がするんですが、今後、そういう予算はありますでしょうか。

○（砂防課） 砂防課で対策しておりますがけ対策っていうのが、急傾斜地崩壊危険区域の指定が必要になります。その指定の条件としては、人家が5戸以上、崖高が5m以上というような条件がありまして、1戸となると急傾斜地崩壊事業は実際、対策はできないというふうになります。

先ほど移転のお話でしたけれども、がけ地近接等危険住宅移転事業っていう事業メニューがありまして、危険な場所から移転してもらう事業というのはございます。

○（委員） あることはあるということですね、そういう事業を適用して移転をして、移転補償なり何らかして、自分の自腹出すようなことになってるような気がしますけど、そういう感じのものがあるってということですね。

○（砂防課） そうですね。ちょっと詳しい要件までは、ここですみません、勉強不足なんですけど、市町村や県や国からの補助を受けて、そういった危険地に建っている住宅を移転するという事業もございます、砂防課の所管ではございません。

○（委員） 今、江の川で何軒か集中移転をされましたね。毎年浸水されて、もうたまらなかったので、とにかく高台移転という形で、移転補償しながらやられたケースがあったと記憶してますけども。それとは別に、普通の通常パターンで、オール、全額国費か何かで負担してやられたという気がしますけど。それでないんで、やっぱり自己負担をしながらでも、そういう道というのはあるということですね、方法論として。分かりました。ありがとうございます。

○（会長） 今のに関連して、僕も伺いたいんです。椈谷地区の対象が4つしかないんですけど、5軒って言われたように思いましたが。

○（砂防課） すみません、説明が不足しております、申し訳ございませんでしたが、こちら人家のみであれば5戸というのが要件になってくるんですけども、例えば今回でございますと、避難所、集会所というのがございまして、避難所などの公共施設がある場合は、こちら1戸のみでも事業が可能ということになっております。

○（会長） 1戸でも。

○（砂防課） はい。

○（会長） ありがとうございます。

それと、砂防事業で影響が及ぶ範囲っていうのを多分、図でも黄色く示されてたと思うんですけども、あれにぎりぎり含まれない家っていうのも見えたんですが、どんな決め方なんでしょうか。例えば70ページの図とかを見たときに、何か微妙なところで入ったり入ってなかったりという感じがあるんですけど。

○（砂防課） 実際の地形の条件であったり、危険渓流の勾配によって、どこまでその被害、実際に土石流が発生した場合に、どこまで広がるかというところで被害想定っていうのは決めております。実際に、この範囲に含まれない家屋っていうのは保全対象に含まれませんので、事業対象としては扱わないこととなります。

○（会長） 砂防だったら来ないと思えるんですけど、急傾斜で境目にあるみたいなのもちょっとどっかで見たような気がするんですけど。これかな。でっかいのり面のある……。ちょっと見つからないです、すみません。あつた、十日市2地区、これは、これ砂防事業か、大丈夫でした、僕の間違いです。すみません。

○（砂防課） よろしいですか。

○（会長） はい。

ほかに何か質問はないでしょうか。（「いいですか」と呼ぶ者あり）

じゃあ、どうぞ。

○（委員） 今のお話にちょっと関連しますが、椋谷地区の避難所の話で。この事業とは直接関係ないと思うんですが、避難所そのものを別な場所にすることを検討されたりとかはあつたんでしょうか。

○（砂防課） この事業、避難所を守る事業をやるときに、今、県のほうでは平成25年か、あの頃からやってるんですけど、当初やるときに、まず、避難所移転したほうが間違いなく安全になる可能性がありますので、その辺りは市町村といろいろ協議しながらやっております。ただ、場所によっては、その地域でここしかないとかいうケースがありま

すので、そういうところについてはそのまま避難所として使われておりますので、それに対して対策を行うというようなことをやっております。

○（委員） 分かりました。ありがとうございます。

○（会長） 避難所なくなったら、事業できなくなることもありそうですもんね。

○（砂防課） そうですね。そういう場合もございます。

○（会長） それじゃあ、次は、〇〇委員。

○（委員） 先ほど委員もおっしゃってたんですけど、人家が少ないところにコストがすごいかかっていると感じていまして、以前、この椋谷を見に行ったときにも、見に行った委員からもそんな話出てたんですけど、島根県はやっぱそういうところがすごく多いと思うんですけど、実際にそういったところを改善していかないと、コストがいろんな面がかかってくるっていうふうに思うんですけど。

島根県自体がコンパクトシティを目指していると、目指していないのかもしれないですけど、コンパクトシティに対する考え方っていうか、県民がいい状態で住み続けられるためには、それを目指すっていうものも一つの選択肢ですし、そちらのほうの県の考えをお聞きしたいんですけども。

○（砂防課） 県全体がどう考えているかというところは、すみませんが、今ここで即答はできなくて申し訳ないと思っております。ただ、砂防事業に関して言うと、国全体としてコンパクトシティのような方針はあり、事業の中では、まちづくり連携砂防事業というのが最近できたんですが、居住誘導区域に対して保全するような事業もあります。コンパクトシティという考え方は非常に重要なことだとは思いますが、一方ではずっと住み育ったところで引き続き住みたいと言われている方もおられますので、それへの対応もすべきというところで、やってきているところです。

○（会長） さっき委員が言われた、江の川でまとめて移転するようになるときに、一旦よそに移って住んだりするので、地元のコミュニティーが壊れちゃうみたいな心配をされましたね。町に出て、家に移るまで町に出て住んでたら、もう帰りたくなるとか、何かそんな心配もあるようですね。

○（委員） すみません、一つ教えていただきたいんですけども、先ほどの御説明の中で、負担金、地元の方の負担金という用語が出てきたように思うんですけど、それに関連して砂防関連のこの事業について、一つ目としては、事業をやるかどうかというスタートの部分は地元さんの要望に基づくものなのかということと、あと、この負担金というのが

どの程度の割合で地元が負担するようになるのかというのを教えたいです。

○（砂防課） ありがとうございます。負担金が伴うのは、先ほど説明いたしました急傾斜地崩壊対策事業と砂防事業と、今回はないんですけど、地滑り対策事業の中で、急傾斜地崩壊対策事業のみとなっております。おっしゃられましたように、基本的には地元要望を市で取りまとめられた上で、県へ事業化への要望が来ることがほとんどでございます。

負担金の負担率につきましては、まず、急傾斜事業の国庫事業の場合におきましても、斜面の高さだとか、保全家屋が幾つあるとかで変わってくるんですけども、現在、島根県砂防課が持っているのは、工事費の約10%か5%となっております。なので、計1億あるのであれば、市町村に10%の場合は1,000万を負担していただくという形になります。そして、こちらに人家等示してあるんですけども、この保全対象で直接保全対象となられる方々が、またその市町村が決められた負担率に応じて負担金を市に納められるんですけども、その負担率は市町村によって非常に様々になっておりますので、ちょっと一概に御説明することができないかなという感じです。

○（委員） そうすると、地元の負担としては、市町村が払う部分と実際の住民が払う部分とあるということ。

○（砂防課） はい、おっしゃるとおりです。

○（委員） それで、その住民の方はもう自分たちが自ら払うということ、何か、納得した上で要望を出して下さっていると。

○（砂防課） そうですね、基本的には、そういう納得していただいた上で、事業化に向けて動いたり、もしくは、最初に補助事業でございましたら、補助金化、交付金化する前に、県で公共事前調査という下調べのような業務委託をするんですけども、その際に対象となる家屋がこれほどあって、その対象の家屋の方々は、例えば概算工事費これぐらいだと、今の時点ではこのぐらいの負担金になるけれどもよろしいですかというのを市町村を通して地元説明会等で実施して、これを御了解いただければ着手していく形になります。

○（委員） それは当然対象となる住宅が少なければ、1軒当たりの負担金額は上がるような。

○（砂防課） そうですね、どうしてもパーセンテージで出しておりますので、必然的にそうなるかと思えます。

○（委員） 分かりました。ありがとうございます。

- （会長） どうぞ。
- （委員） 今の負担金の話で、山とか崖も所有者がいると思うんですけども、そういう場合はどうなるんですか。
- （砂防課） 所有者の方に負担をしていただくかとか、そういうお話でしょうか。
- （委員） 今は、人家の方とか町とか役場だったんですけども、所有者がいる場合はそここのところの負担金がどういうふうになるのかなと思って。
- （砂防課） 基本的に、例えば斜面の所有者と人家の所有者が違う場合とかが多いんですけども、斜面の所有者には、斜面を持っているからという理由で負担金を徴収したりしたことは島根県においてはございません。
- （委員） ということは、所有はしていても崖崩れのおそれとかあるときには、それは関係なしにもう県のほうで保全するっていうことなんですかね。
- （砂防課） はい。
- （委員） 分かりました。
- （会長） 簡単にでいいんですけど、さっきの説明の途中で、令和5年に設計指針の改定があったって言われましたけども、ちょっと簡単に教えていただけますか。
- （砂防課） 設計指針の改定は平成31年に行っておりまして、それ以降は新しい指針で動いているんですけども、改定があったのは、擁壁に対する衝撃力と土砂捕捉量が主になります。待ち受け式擁壁だと、今、横断面図を示しているんですけども、指針の改定までは、この擁壁に対しては、例えば上から崖崩れが起こって擁壁にぶつかる場合の動的な衝撃力とかを考えておりませんので、また、土砂捕捉量というのも、島根県の今までの経験から、断面的に1m掛ける1mのポケットがあればそこからあふれたような事例はないということで、改定までは準用していたんですけども、この改定後以降は、斜面の高さによって落ちてきたときの衝撃力に耐え得る構造とする必要があったことと、あとは、斜面の高さに応じて土砂が落ちてきたときに、その捕捉量を満足するだけのポケット幅を確保するというような改定になりました。ですので、全体的に擁壁の断面だとか、ポケット幅というのは大きくなっていることが多いと思います、それ以降。
- （会長） 令和5年じゃなくて。
- （砂防課） 平成31年でございます。
- （会長） ほかにないようでしたら、砂防課さんの説明はこれで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

それでは、次は建築住宅課さんですね。お願いします。

【建築住宅課から説明】

⑮ 淞北台地区 地域居住機能再生推進事業

○（会長） ありがとうございます。

それでは、この事業について質問等ありましたらお願いします。

○（委員） 県営住宅整備事業ですけれども48年頃に建ったのを知っていますが、私の友人が月7,000円か8,000円が入ってました。その当時は、まだ発展途上でしたが。今の内容見ると、住民の高齢化、バリアフリー化、子育ての棟も必要とあるんですが、この淞北台自体のタウン構想は、今住んでる方々のためなのか、県営住宅をある意味リニューアルをして、新たな入居者も入れてここのタウンをもう少し拡張させたいとか、構想的なものがあれば触れていただきたいです。

○（建築住宅課） 県営住宅におきましては、あくまで公営住宅になりますので、住宅困窮者のための住宅整備ということです。淞北台団地につきましても、もともとは既存団地の建て替えで始まっておりますので、淞北台団地全体ではなくて、あくまで県営住宅淞北台団地の建て替えということで、建て替えを開始しております。ですので、建て替え後も住み替えになりますので、そこに建て替え前に住んでおられた年齢層とか世帯層を勘案しまして、建て替え後の住宅の戸数であるとか間取りについてはある程度決定しております。ただ、大輪団地にも一部建て替えを行っておりますので、そこについては余剰部分も出ます。一部は余剰地として活用するんですけれども、今の想定でいきますと、1号棟につきましましては、既存の入居者が移って住んでいただくと。2号棟と子育て棟につきましましては、新規で募集、公募をかけて決定するという予定にしております。そこについては団地の高齢化とかそういったところで、自治活動もなかなか困難になっているという状況もありますので、若い方とか、そういった方を積極的に入居させることによって、県営住宅団地全体の自治活動とかコミュニティーの維持、さらには周辺の淞北台団地全体の地域コミュニティーの活性化にも寄与できたらというところで整備を進めております。

○（会長） よろしいでしょうか。

○（委員） 分かりました。ただ、例えば県が、淞北台という昔からの県営住宅ゾーンがある、これの再整備ということですね、要は。

○（建築住宅課） そうなります。

○（委員） 関連か分かりませんが、雇用促進住宅とか松江市内にいっぱいありますよ、今入っておられませんが。ああいうのも整備したほうがいいかな。

湊北台も全然狭いですからね、風呂もカクバスで、とても今の人が住めるようなところじゃないけども、松江のその辺りも、県が関与すべきか市が関与すべきか分かりませんが、今、マンションがあちこち建ったりしてますけども、若い人たち、子育てとかいろいろ含めれば、そういうところも有効に合わせて考えていていただきたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

○（会長） では、担当される委員の方にはその辺のことも具申書に織り込んでもらって、ということに。

じゃあ、僕もちょっと質問なんですけど、新1号棟の図面を出していただけますか。バリアフリーを目指しているというのは分かったんですが、エレベーター1台で74戸だと、朝とか混むんじゃないかなと思ったりするんですけど。引っ越しのみんなが来たときとか、どんな感じでしょうか。

○（建築住宅課） 一般的にはこういった集合住宅の場合に、エレベーターを2台にするというところになってきますと、100戸というところがある程度一つの目安といわれてます。ただ、県営住宅におきましても、同様に8階とか10階ですね、高層の住宅で同規模の戸数が多いものがございますけれども、そこら辺においても特段苦情といたしますか、1台しかないので不便だということで御意見は確認できなかったもので、そういった意味でも問題ないと考えて、この計画で進めております。

○（会長） なるほど。でも、最初に引っ越しするときは日にち指定しないと、何かしんどそうですね。

ほかに。

○（委員） バリアフリーとかいろいろ便利になってよくなるんですけど、今まで住んでいた方がこちらに引っ越しされたときに、今まで住んでいた家賃とかそういうのに変化はないんですか。

○（建築住宅課） 県営住宅の家賃に関しましては、建設時の建設費に影響されます。ただ、入居者、今回、公営住宅という制度の中では、入居者の所得に応じて今の家賃が設定されております。今回、もともとの住棟から新しくしますので、建設費の部分がかなり上がりますので、家賃については当然上がります。ただ、いきなり新しい家賃になってし

まいりますと入居者の方も大変ですので、5年かけて段階的に家賃のほうを引き上げるところで、もちろん入居者の方にも事前にそういったことを御説明した上で、御同意いただける方に新しい棟に移っていただくと。その家賃に関して対応し切れないということであれば、他の県営住宅に空きがあれば、そちらのほうに移っていただくことも御案内できるといふふうにしております。

○（委員） だとしたら、高齢者の方ってだんだん仕事をしなくなって、5年をかけて上がっていくのはいいんですけど、やはり今言われたとおり、出ていけなくちゃいけなくなる人が出てくるんじゃないかなって想定されるんですよ。そうすると、今、壊して、これが耐震の関係で壊さないと駄目だったら仕方がないかもしれないけども、中をリフォームするっていう考え方はなかったでしょうか。

○（建築住宅課） 建て替えにつきましては、当然のことながら改修で何とかできないかということも検討はしております。ただ、湍北台団地に限らずですけども、昔の県営住宅で中層、4階建ての鉄筋コンクリート造とかで多いのは、階段室型というような構造形式になってる、そういったところで改修をしてバリアフリーということになると、エレベーターの設置が非常に困難になってきます。そうすると、エレベーターを何基も設置するとかそういったことも出てきますし、そもそも居住部分の面積が、昔はちょっと小さかったんですけども、今、国が定める最低水準の面積もちょっと大きくなってきているということもあります。設備についても、先ほど写真でもお見せしましたが、お風呂につきましてもガス釜であったりとか、そういったことでなかなか改修するってなると大がかりになりますし、改修をしても今住んでおられる方に別の場所に仮移転をしていただくという必要が出てきて、なかなかそれを同じ市内、湍北台でいいましたら、松江市内でそういった仮の入居先を確保するというのがなかなか困難になってきますので、そういったところを総体的に考えますと、どうしても建て替えをし、その後は長寿命化、湍北台につきましては、今後そういった面積による変化が出て対応できるように、壁の躯体の部分なるべくコンクリートの壁を少なくし、乾式の壁にするというところで、界壁の壁をある程度自由に移動ができるような構造にしたりというところで、今後はなるべく予算をかけずに長い間維持できるというような方向で計画を進めております。

○（委員） よく分かりました。堂々巡りになるんですけど、今、家賃が払えなくなって、違ったとこに移ってもらおうと、違った県営アパートに。でも、その県営アパートって古いと思うんですよね。そうするとやはり浴槽に段差があったりとか、そういうところ

に高齢になって必ず必要になる人が移動しなくちゃいけないっていうのは、何か矛盾してるなみたいな感じがするんですけど、そういう点はどうでしょうか。

○（建築住宅課） 建て替えをするときに事前に入居者の方に説明会をして、家賃が上がりますということとかも説明をしてる中で、今言われるように家賃のことはかなり気にされる方が多くおられます。ただ、県としましても、なるべく家賃もありますが、居住性の向上とかそういったところの部分維持するということもありますので、その兼ね合いを見ながらというところではあるんですけども、家賃が上がる方につきましては、先ほども申しましたように、別の団地で家賃がなるべく安く、さほど上がらないところを紹介するというようなことで紹介をさせていただいてはおりますが、家賃を取って、県営住宅、ほかの団地に移っても、順次、50年を過ぎると県のほうも建て替えを進めておりますので、移ってもまた数年したらほかの団地に移るみたいなことも起きますので、そこにつきましては、ある程度御了承いただいて、家賃の上昇につきましても、先ほど言いましたように5年間をかけて徐々に上げていくということで、上がった後でも民間のアパート等に住まれるよりもかなり、半額以下で住み続けることができますので、そういったところで了解をいただいて、事業のほうを進めさせていただいてるというような状況です。

○（会長） よろしいですか。

○（委員） 分かりました。

○（会長） ほかに何か。

○（委員） すみません、費用便益分析のところ、ちょっと教えていただきたいんですけども。便益のところ、家賃とか駐車場利用料って、住民の方が支払われるものがあるって、それと、もう一つは残存価値っていうのがあるんですけども、これはどういった便益になるのでしょうか。

○（建築住宅課） 今回の公営住宅に関しましては、国のほうで費用便益の算定方法を定めておりまして、それに基づいて算出しております。

もう一度ちょっと質問の趣旨を教えてください。

○（委員） 残存価値っていう、名前から私がイメージするのは、何かこの後、ある程度耐用年数使った後、売却するような、そういったイメージで受け止めたんですけども。

○（建築住宅課） そうですね、経年した後の、そのときの将来的な建物の評価価格といますか、そういったところを加味して算定しているということです。

○（委員） それは実際に売却するというわけではなくて、その時点で残っている価値

ということですか。

○（**建築住宅課**）　そうですね、固定資産税の額とかの算定の基になっているような、評価額の数字を基に算出することを想定してつくったものです。

○（**委員**）　そういったものを便益として組み入れるというようなのが、決まったやり方としてあるという。

○（**建築住宅課**）　そうですね、国のほうでもそういった形で示しておられるというところで、参考にしてやってるところです。

○（**委員**）　分かりました。さっきからあった家賃の話で、もう一つお聞かせいただきたいんですけど、この費用便益分析のところで、家賃とか駐車場とかもまた計上されて、その結果、 B/C が1.01になっておりますけども、ほぼ1の値になっていて、この家賃とか駐車場の料金っていうのは、こういった形で B/C がほぼ1になるような設定の仕方をしているっていうことでしょうか。

○（**建築住宅課**）　国のほうもこの算定で求める B/C に関しましては、0.8以上というのが基準とされています。というのも、やはり公営住宅という性質上、福祉的な要素もかなり強くございますので、一般の民間のアパートとか、そういったところのように商業的なもうけを目指すというところではなくて、あくまで公共的な福祉に寄与するところをベースにしているために、1.01というところで今回は算出したというところ です。

○（**委員**）　 B/C の1を狙ったというわけではなくて。

○（**建築住宅課**）　家賃のほうも建設費に応じて算出するような形になっておりますので、おのずとこういった形に結果としてなったというところ です。

○（**委員**）　分かりました。ありがとうございます。

○（**会長**）　どうぞ。

○（**委員**）　今住んでおられる方が、今回、新装されて、そこに戻ってこられるというのが基本なんですけど、かなり高齢の方が多いんでしょうね。その中、子育て棟が10戸、木造であるんですけども、これはここに今まで住んでない方でも、この子育て棟というのは子育て支援ということで10棟建てられるのか、今住んでいる人の要望でこういうものを建てるのか、その辺りいかがでしょうか。

○（**建築住宅課**）　まず、子育て棟ということで御説明させていただきましたが、子育て支援住宅という制度を県のほうでは設けておりまして、こちらに関しましては、小学校

就学前のお子さんがおられる世帯が、高校を卒業する年度の末日、18歳に達した年度の末日までを限度として優先的に入居できる制度としてございます。湊北台団地に関しまして、こういった形で建設を予定しておりますが、入居される方の募集方法とか、そういったところは現時点では決まっていない状況ではあります。

○（委員） 分かりました。

○（会長） それでは、大分意見も出たので、これで質問の時間を終わりにしようと思います。ありがとうございました。

以上で再評価事業箇所の説明は終わりましたので、今から10分間、休憩しようと思います。

〔休 憩〕

【フォローアップ調査について】

○（会長） それでは次は、フォローアップ調査の要否について、委員の皆さんに諮りたいんですが、まず、事務局のほうから説明をお願いします。

◎事業完了地区におけるフォローアップ調査について、事務局から説明

県から提案する箇所なしと説明。

今年度は対象地区なしで一同同意。

（2）審議箇所、現地調査箇所、担当委員の決定

○（会長） 次は、審議箇所、それから現地調査、どこに行くか、担当をどこをさせていただくかという話になるんですけど。

まず、今年度は対象地区は15地区全部ということに、最初に皆さんに納得していただきました。自分は総括意見を書く担当ですので、残り皆さんに、9名の皆さんで1か2か、1か所か2か所かを担当していただくということになります。今年度、事前にアンケートで希望地区調査を行いましたので、事務局から調査の結果と選定方法について説明をお願いしますと思います。

日程の都合上、全地区に現地に行くっていうのはちょっと困難というのも最初にお話ししたところなんです。

では、事務局のほう、お願いします。

◎事務局から希望調査に基づく担当委員委員(案)の説明

- ・ 担当希望調査結果により 8 番の高瀬川を除く 1 4 箇所を担当委員 (案) を作成
- ・ 8 番の高瀬川については、委員 2 名で話し合っ決定

○ (会長) ありがとうございます。事務局さんのほうから希望調査の結果をうまいこと組み合わせてもらって、担当地区を仮に決めてもらってるんですけども。これは気に食わないというのがあったら言ってください。多分ないと思います、皆さんの意見で出されてるので。よいでしょうか、この地区で問題ないでしょうか。(「はい」と呼ぶ者あり)

そうすると、次は、8 番の高瀬川なんですけども、委員 2 名が同率で 2 位で上げられてるんですが、どちらかお一方にやっていただきたい。

○ (委員) どうぞ。

○ (会長) お願いしていいですか。

○ (委員) 分かりました。

○ (会長) じゃあ、よろしく願います。では、8 番は〇〇委員ということで。

○ (会長) 続いて、現地調査箇所の決定なんですけど、事務局から現地調査箇所についての説明をまた、願います。

◎事務局から東部現地調査(案)の説明

- ・ 東部地区は松江市、出雲市、雲南市の対象箇所について、調査可能な行程 6 案を提案

○ (会長) まず、東部について説明していただいたんですけども、皆さんから聞きたいのは、これだけは見とかんといかんぞって箇所があるなら、それを含んだところに行くべきだと思いますので、これだけは見たいって箇所があるのでしょうか。現地見ておかないといけないでしょうというような。

事務局さんのほうでは、どの案も回る行程を考えた上で組んでもらってるわけですね。

○ (事務局) はい。

○ (会長) お勧めから 1 になってますか。

○ (事務局) お勧めというか、一番箇所が回れるのは案 5 なんですけども、どうして

も帰る時間が、出雲市駅が16時30分になるので、そこだけはちょっと気になる場所です。

○（会長） そうですね、ちょっとでも遅れてずれたら乗り遅れるという心配をしたことが何回かあるので、車内でずっと質疑応答しながら帰るみたいなこともあって。

どうでしょうか。どっか見ておきたいところ、ありますか。

○（委員） 案2。

○（会長） 案2。中川、それから団地、雲南が入ってくるわけですね。で、出雲で解散ということですね。

ほかの委員さんからは、ここがいいっていうのはありますか。

○（委員） 私の希望は案1です。

○（会長） 案1。

○（委員） もう案5は駄目だということですので。

○（会長） はい。

○（委員） どなたか決められたら、あと、希望言われたら。

○（会長） ほかに希望がないようでしたら、1と2で多数決でもう決めてしまえばいいよ。

じゃあ、案1がいい人。お二人。では、案2がいい人。お二人。

なかなか難しいですね。ほかの意見がないということでしたら。1と2で事務局さんが楽なほうはどちらでしょうか。楽っていったらあれですけども、やりやすい。

○（事務局） 回りやすいのは案1のほうです。雲南市が少し離れており、雲南市に行かない案1のほうがスケジュール的には組みやすいです。案2はお昼の食事とかに問題があるかもしれませんので。

○（会長） 分かりました。では、同点でしたし、案1でいいでしょうか。

（「いいです」と呼ぶ者あり）

それじゃあ、案1でいくことにしましょう。

○（委員） 日付、いつ。

○（会長） 日付。

○（委員） これが最初の日ですか。8月の。

○（会長） 初回ですよ。

○（事務局） 初回のほうです。8月20日のほうです。

○（会長） じゃあ、続いて、西部のほうの案について説明をお願いします。

◎事務局から西部現地調査(案)の説明

- ・ 西部地区は川本町～美郷町、浜田市、津和野町、吉賀町の対象箇所について、調査可能な行程を4案提案

○（会長） では、ちょっと考えてみてください。特に担当される委員の方は…。

○（委員） どうしても津和野へ行かないといけない。

○（会長） 椈谷地区はまだ見るところはないということなんですね、工事としては。

○（事務局） 工事は未着手になります。

○（会長） 工事前の現地はあるってということですね。

これは見とこうぜっていうのありましたら。

どうでしょうか。どの案がよいでしょうか。

○（委員） 自分の担当からお伝えしますと、2か4ですけども、あとは、それですと、川本と浜田がないので、ほかの方がどちらにいらっしゃりたいかというところ。椈谷には自分で運転してでも見には行けると思いますが。多分、未着手ですから、あれですよ、まだ、5年前と変わってないんじゃ。

○（会長） どうですか。

○（委員） 私も自分のところなので、3と4ですかね。

○（委員） じゃあ、やっぱり4にしましょうか。

○（会長） 4にしますか。大田集合で、益田解散。

○（委員） ハードスケジュールというか、今も見たら、ちょうどいい特急がないんで、大田で1時間待つようだなと思ったりはしてますけど。

○（会長） そうですね、車で行けないですもんね。

○（委員） 車で行ってしまうと、ですから、益田から大田を終わって特急でっていうことですよ。

○（会長） そんなになっちゃうんで、やっぱり汽車で行かないと。

○（委員） そのほうがいいですよ。

○（会長） はい。

○（委員） 1か3だね。

- （委員） 1か3ですか。
- （委員） 4はないね。
- （委員） 4はないですね。
- （委員） 4は却下。
- （会長） ちょっと長いですね。
- （委員） 津和野をやめればもうちょっと短縮できると思うんだけどね。
- （事務局） 案4で柵谷もやめるというお話かと思われますけど、特急列車の時間が4時と6時ぐらいのがありまして、案4だと6時過ぎの特急に乗る形になるんですけど、柵谷をやめても、4時の特急に間に合わず、結局、帰る時間は同じになってしまうという状況です。
- （会長） なるほど。
- （委員） 柵谷と扇町をやめるという案はないんですかね。
- （事務局） 案3で扇町をやめて、左鐙Ⅱ工区に行くという形ですかね。案3で、扇町の代わりに左鐙Ⅱ工区。
- （委員） はい、そうですかね。
- （会長） よさそうですね。
- （事務局） これは、多分大丈夫ではないかなと思います。
- （委員） 西の方優先で。
- （事務局） 今、ご提案のあったの、2番、9番、3番だと思いますけども、恐らく行けるのではないかという感じではおりますけども。
- （会長） じゃあ、2番、9番、3番に行くことにしましょうか。そのように変更をお願いします。それでも、結構大変は大変ですよ。遠いすもんね、最後が。では、そういうことで決定しましょう。

では、担当委員と現地調査箇所の確認を事務局のほうから、もう一度お願いします。

◎事務局から担当委員の確認

- ①(主)玉湯吾妻山線 防災安全交付金事業 大峠工区：〇〇委員
- ②(主)川本波多線 社会資本整備総合交付金事業 多田～港工区：〇〇委員
- ③(一)匹見左鐙線 防災安全交付金事業 左鐙Ⅱ工区：〇〇委員
- ④(一)国賀海岸線 防災安全交付金事業 浦郷3工区：〇〇委員

- ⑤(主)玉湯吾妻山線 防災安全交付金事業 川井2工区：〇〇委員
- ⑥国道431号道路交通安全施設等整備事業補助（通学路緊急対策）国富工区：〇〇委員
- ⑦中川 大規模特定河川事業：〇〇委員
- ⑧高瀬川 広域河川改修事業：〇〇委員
- ⑨三隅港海岸 湊浦地区 海岸侵食対策事業：〇〇委員
- ⑩扇町地区 急傾斜地崩壊対策事業：〇〇委員
- ⑪椀谷地区 急傾斜地崩壊対策事業：〇〇委員
- ⑫山崎川 事業間連携砂防等事業：〇〇委員
- ⑬清水谷川 事業間連携砂防等事業：〇〇委員
- ⑭十日市2地区 事業間連携砂防等事業：〇〇委員
- ⑮淞北台地区 地域居住機能再生推進事業：〇〇委員

◎事務局から現地調査の確認

- ・ 東部現地調査 ⑥番、⑦番、⑧番、⑫番、⑮番 8月20日（火）
- ・ 西部現地調査 ②番、③番、⑨番（可能ならば⑩番追加） 9月2日（月）

○（会長） では、審議が終わったと思うのですが、事務局から何か報告事項等があればお願いします。

○（事務局） 特にございません。

○（会長） それじゃあ、今度は委員の皆さんに伺います。全体通じて質問とか意見があれば、今どうぞ。

○（委員） すみません、8月20日は松江駅集合ということですか。

○（事務局） 現地調査の詳しい行程については、後日、皆様にご案内したいと思います。基本的に県庁集合か駅集合と考えています。

○（委員） じゃあ、松江市内だったら車で行ってということですよ。

○（事務局） そうですね。

○（委員） 帰りが最後、出雲市解散になってる。

○（事務局） 出雲市駅解散ですけど、松江の方はそのまま同乗していただいて県庁までは帰ろうと考えています。

○（委員） どうやって帰ろうかあと思って、今一瞬。

○（会長）　じゃあ、県庁から出て、松江駅行って、西の人拾って。また県庁に帰るわけですね、駅通って県庁に帰る。

○（事務局）　はい。

○（委員）　車は合庁から出るの。合庁から駅に迎えに行くの。

○（事務局）　そうですね、県庁から駅のほうに向かって、駅スタートという形で。

○（委員）　県庁から乗るから、県庁で終わってもらいたい、松江の方は。

○（事務局）　また、その辺りの詳しい行程をお知らせします。

○（会長）　それでは、議事は以上になります。

（３）その他（資料請求、今後のスケジュール）

○（会長）　各事業の説明資料は今日使用したものですけど、各委員がこれからまた質問事項が出てきて、もっと詳しい資料欲しいということになった場合は、事務局のほうに連絡してください。そうすると、事務局のほうでは資料を整えてくれて、全員に同じものを配ってくれます。共有することになります。その申込みはいつでもいいそうです。随時大丈夫です。

　　どうでしょうか、これについては何か聞いておきたいことありますか。

○（委員）　誰に言ったらいいですか。

○（会長）　事務局のどなたに。

○（事務局）　私のほうに送っていただければと思います。

○（会長）　じゃあ、ほかに意見がなければ、今日の議事はこれで終了です。ありがとうございました。

　　では、事務局に。もうちょっと事務局から連絡があると思います。お願いします。

○（事務局）　会長、ありがとうございました。

　　先ほど会長より資料請求について話がありましたが、それも含めて委員会での課題の整理について、流れについて説明いたします。今日配付させていただきました２ページ目を御覧ください。いろいろなことを書いておりますけども、本日いただいた課題につきましては、全て委員の皆様にもメールで御回答いたします。その後、いろいろ質問等あると思います。それにつきましては、先ほどありましたように、事務局のほうにメールでお願いしたいと思います。その後、事業課と整理の上、事務局より委員の全ての皆様にもメールいた

しますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、今後の日程です。今後の日程は、1ページ戻っていただきまして、カラーでスケジュールをつけております。第3回までの日程は確定しております。第4回の委員会を9月下旬から10月上旬、第5回の委員会を10月下旬に予定したいと思っております。最終的に、知事への意見具申ですけれども、11月中旬から下旬に行いたいと思います。第4回以降のスケジュールにつきましては、委員の皆様の御都合を改めて調査させていただきますので、御協力のほうをよろしくお願いいたします。

ここまでで質問等があれば。

それでは、これをもちまして、第1回島根県公共事業再評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。

6. 閉会